ILC グローバル・アライアンス

2010 年次総会議事録

V&A ウォーターフロント パビリオンコンファレンスセンター　第5・第7会議室

Cape Town, South Africa

October 25, 26, 2010

【 出 席 者 一 覧 】

■メンバー

◇共同議長

Dr. Monica Ferreira（南アフリカ）　Baroness Sally Greengross（英国）

◇メンバー

Mr. Shinichi Ogami（日本）
Ms. Noreen Siba（英国）
Dr. Sebastiana Kalura（南アフリカ）
Mr. Martin Boekholdt（オランダ）
Dr. Sara Carmel （イスラエル）
Ms. Angelique Chan（シンガポール）
Dr. Masako Osako (事務局)
Dr. Francoise Forette （フランス ）
Dr. Jayant Umrankar（インド）
Dr. Lia Daichman（アルゼンチン）
Ms. Marieke Van Del Waal（オランダ）
Dr. Mary Ann Tsao（シンガポール）
Ms. Mala Manap（シンガポール）

■オブザーバー

Dr. Bernard Forette（フランス）　Dr. David Matchar（シンガポール）

■欠席

アメリカ、ドミニカ共和国、チェコ共和国

◆◇第１日目　9:00～12:00◆◇

1.　開会の辞

フェレイラ ILC 南アフリカ理事長より、ILC 各国からの代表を歓迎するとともに、年次総会を開会する旨が告げられた。

また、今年度はバトラー博士の逝去、森岡 ILC 日本顧問の１年後の共同理事長退任 というグローバル・アライアンスにとっての重要な転換期となること、今後はアライアンスの業務をプロフェッショナル化し、効果的な運営、安定的な財政基盤の構築、メンバーの拡充、グローバル・アライアンスの存在のグローバル化を目指すべきであることが述べられた。

2.　バトラー博士追悼

2010 年７月４日に急性白血病により他界したバトラー博士を悼み、全員が博士との出会い、思い出を語り、ILC の創設者である偉大なる博士の遺志を継いでグローバル・アライアンスを発展させていくことを誓った。

3.　2009 年パリ年次総会議事録

パリ会議の議事録が満場一致で承認された。

4.　ニューヨーク会議報告＜大迫事務局長＞

2010 年 9 月 29 日にニューヨークにて数カ国の ILC メンバーと ILC-USA の代表者による会議がもたれた。

１）ILC-USA は 2011 年 3 月 1 日よりコロンビア大学公衆衛生大学院に移管する
２）ILC-USA は教授１名と政策分析担当部長、研究担当部長を補充する
３）グローバル・アライアンス事務局の責任を再定義する

5.　新規加盟申請状況と加盟基準　＜大迫事務局長＞

①本年度は新規加盟審査はなし
候補国であるブラジルはイギリスが、中国はシンガポールと事務局が、継続して交渉窓口を担当する。

②今後グローバル・アライアンスの業務内容が明確化され、ILC-USA のコロンビア大学移管が完了するまでは、新規メンバーを積極的に探すことはしないことが合意された。ただし、申請書が提出された場合はその都度検討する。

③入会金について：US$20,000 から US$10,000 に引き下げることが承認された。

6.　各常設委員会からの報告と委員会の在り方についての議論

各委員会より以下のような報告がなされた。

＊**ウェブサイト委員会**：管理運営責任が日本から英国へ移行した。英国は管理運営資金として３カ年分の助成金を獲得している。

＊**国際渉外委員会**：ヨーロッパにおいて効果的であった。特に世界人口高齢化フォーラム（WDA: World Demographic and Ageing Forum）や世界保健機構（WHO: World Health Organization）、世界高齢者団体連盟（IFA: International Federation on Aging）との関係を強化した。

＊**プログラム委員会**：

① 国連国際高齢者の日（10/1）を記念する活動内容および複数のセンターが実施したバトラー博士追悼講演会について報告した。

② アライアンスが他の国際的組織と共同する際のガイドラインを作成する必要性について提言した。

常任委員会の生産性や有効性に関する討議や、常任委員会の継続についての示唆があった。今後は担当責任国を明確にし、業務を遂行する事が約束された。

１）ウェブサイト委員会：英国

２）国際渉外委員会：アルゼンチン、シンガポール

３）財源検討委員会：オランダ

◆◇第１日目　13：00～17:00◆◇

7.　各国の活動報告

ILC センター理事長及び担当者より、各国の活動状況について報告がなされた。
アルゼンチンーフランスーインドーイスラエルー日本ーシンガポールー
南アフリカーオランダー英国

各国からの報告後、分野横断的なテーマ、成果、他のメンバーの活動との関連性や影響について議論が展開された。
特に日本、英国、フランスの活動内容は、政策、アドボカシー、地域社会、調査研究に関する活動がうまく調和しているとの意見が多く出された。

国際共同プロジェクトを行うことによってグローバル・アライアンスの認知度や重要性を高めることができるため、各国においてプロジェクトを実行する際、他の ILC メンバーとの共同研究の可能性を検討すべきであることが確認された。

今後はプロジェクトの目的とテーマを明確にし、担当分野と責任国を明らかにしつつ強力に進めることとなった。
研究プロジェクトの担当分野と責任国は以下の通り。
① アクティブ＆ヘルシー・エイジング：日本・フランス
② アドボカシーと基盤整備：英国（アルゼンチン）
③ 介護問題：イスラエル（シンガポール、インド）
④ 世代間関係：英国（アルゼンチン、インド）
⑤ 認知症関係：南アフリカ

＊責任者となっている国は、その分野に関係する活動を行った ILC メンバーのリスト作成と、共同プロジェクトの企画案を 2011 年 4 月までに作成すること

◆◇第２日目　９：00～12:00◆◇

8.　2009-2010 年収支決算報告　＜大迫事務局長＞

＊2010 年 9 月 30 日現在残高：US$45,654.72（会計監査前）

＊追加支出予定：

１）ケープタウン開催の年次総会出席旅費

２）501Ｃ3 申請と国連経済社会理事会（ECOSOC）の NGO 登録申請費用

＊監査終了後、理事会にて審議予定。

9.　財政基盤の整備

年会費納入と支払基準について再確認を行うとともに、今後の方針を決定した。

１）年会費の納入は全てのメンバーが負う責任および義務である

２）全額納入が難しいメンバーについては、支払期限以前に予め共同理事長の許可を得なければならない

３）会費納入が 2 年間滞った場合、共同理事長より以下の手順で処置を行う

＊6 か月以内の全額支払勧告

↓

＊6 ヶ月以内の全額支払警告.

↓

＊ILC としての資格一時停止、あるいは取り消しを理事会にて採決

10.　事務局の機能と業務の再定義

グローバル・アライアンス事務局の機能と業務について、以下のことが議論のうえ承認された。

１）グローバル・アライアンス事務局は、2011 年 3 月までは現在の業務を継続する。

２）ILC-USA のコロンビア大学移管が完了し、大学内におけるグローバル・アライアンスの立場が明確になった後、事務局の機能と業務および事務局長の立場を再考する。

４）共同理事長がアライアンス事務局の受け入れと支援を依頼する文書をコロンビア大学の Fried 学部長に送付する。

11.　新規共同理事長の承認

大迫事務局長より、グリーングロス ILC 英国理事長およびフェレイラ南ア理事長が新しい共同理事長に選任されたことが報告され、満場一致で承認された。任期：2010 年 10 月～2013 年の 3 年間。

12.　アドバイザリー・ボードについて

アドバイザリー・ボードについては、森岡共同理事長やゴカレ ILC インド名誉理事長の意見にあったように、現段階では組成せず、今後「特別顧問」の形での可能性を考えることとした。例えば WHO の Jon Beard 氏などが候補に考えられるだろう。

13.　2011 年年次総会　開催地

2011 年 9 月初旬　オランダ（ライデン）
2012 年　　チェコ（プラハ）＜IFA 総会開催時期　5/28-6/1＞
2013 年　　シンガポール